

議事録 兼 報告書

会議名称	伊那市上下水道事業運営審議会
日 時	令和6年7月17日（水） 10:30～11:30
場 所	伊那市役所 庁議室
議 事 内 容	
<p>(進行 水道部長)</p> <p>1 開会のことば 水道部長</p> <p>2 あいさつ 会長 異動職員自己紹介</p> <p>3 会議事項（議長 会長）</p> <p>(1) 令和5年度水道事業及び下水道事業の決算状況について ・資料No.1により事務局説明</p> <p>《質疑討論》</p> <p>(会 長) ただいまの説明について、委員の皆さんからご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>(委 員) 資料7ページの「水道有収率」が課題であるというお話があり、漏水の割合が高いため、対策を進めているということでしたが、具体的にどのような対策をされているのか教えてください。</p> <p>(事務局) 今年度ですが、人工衛星を利用した画像解析を行っております。これによりまして、大まかな範囲で漏水箇所を特定できるというものでございます。画像解析の結果に基づき、漏水箇所をさらに絞り込んで特定し、修理を進めていきたいと考えております。それから、計器等を監視する中で、夜間の異常水量などから漏水の有無を確認するという取組も行っております。</p> <p>(委 員) ありがとうございます。最近、空き家も多くなっている中で、空き家の敷地内の漏水というケースも多くあるのではないかと思います。そうでもないですか。</p> <p>(事務局) 冬季に空き家の敷地内の配管が破裂して水が出ているという事例もあり、近所の方からの通報により発覚するケースもあります。そうした場合には、家の中には入れませんので、メーターのところで水を止めてしまうという対応を取ることもあります。</p> <p>(会 長) 漏水のことは、以前から課題になっていることですが、有収率のグラフを見ると、わずかですが上昇傾向にありますから、これまでの対策の成果はそれなりに出ているのかなと思います。先ほど、衛星画像を使って、というお話がありましたが、すでに</p>	

使われていて、何らかの対策を取られているということでしょうか？

(事務局) 現在、委託業者により衛星画像の分析を行っているところでございます。概ね 100m の範囲まで漏水箇所を絞り込めるというのですが、分析画像から漏水のあるエリアを絞り込み、人の手によって集中的に漏水箇所を特定していくという流れになります。

(会 長) 人の手によって調査に入るのは、いつ頃になる予定ですか。

(事務局) 現在は、衛星画像と市が保有している管路のデータを重ね、漏水の疑いがある箇所の分析を進めている段階です。9月頃に解析結果の速報が出る予定ですが、業務委託の契約期間は、今年度末までとなっております。年度末までに解析結果の最終報告を受け、その後、人の手による漏水箇所の調査に着手したいと考えております。

(会 長) ありがとうございます。今後の漏水修理の効率が高まることを大いに期待したいと思えます。他にございますか？

(委 員) 能登半島地震では、水道施設も大きく被害を受け、未だに厳しい状況もあると聞いておりますが、職員の人員削減等により復旧のためのマンパワーが不足しており、その影響で復旧が遅れているという記事も目にします。伊那市の上下水道も、ギリギリのところまで経費を削減し、大変な努力のなかで経営を維持してくださっているのだと思います。上水道は広域で保っている部分もあるかと思いますが、下水道をこれだけ整備してきた中で、災害が起きた場合の対応、準備やビジョン、他課との連携などについてのお考えがあれば教えてください。

(事務局) 広域的に被災した場合、水道につきましては、発災直後から、すぐに給水を再開することは難しくなると考えております。伊那市の場合は、コンクリートで作った PC タンクがいくつかありますが、ある程度の大きな地震で揺れを感知した場合は、自動的に配水を停止するというシステムが付いておりまして、一旦 PC タンクからの配水を停止します。その後、被害状況を調査しまして、問題が無ければ徐々に給水範囲を広げていく予定です。能登半島地震のように広域的に被災した場合は、水源から水が来なくなることも考えられますので、そのような場合には、職員が給水対応を行うこととなります。また、状況によっては、自衛隊を要請したり、水道協会を通じて別の事業体へ応援給水を依頼するという対応が考えられます。

能登半島地震の後、下水道の管路の状況を調査するために、伊那市からも被災地へ職員を派遣しましたが、下水道の場合も、まずは被害の状況を把握するということが一番だと考えております。それから、水道もそうですが、施設や管路の耐震化を進めております。地震に強い管への布設替え等を行うわけですが、全てを一度に替えることは難しいものですから、予算の範囲内で、重要な場所から徐々に入替を進めているという状況になります。

(水道部長) 補足になりますが、下水道の整備を盛んに行っていた 10 年ほど前までは、下水道管の布設工事と併せて水道管の布設替も行っていたので、職員もそれなりの人数がいましたが、下水道の整備が終わったこともあり、職員数は急速に減っているのが現状です。市役所全体で職員数が減っているということもありますが、水道部もピーク時の半分くらいの人数になっているため、マンパワーが不足しているということは、委

員さんのおっしゃるとおりだと思います。行政として、先ほど説明した対策や対応を行うわけですが、危機管理課では、市民の皆さんにある程度の水や食料の備蓄をお願いしております。1日目から2日目は、備蓄品により何とか凌いでいただきたいということをお願いしております。一人1日あたり3リットル程度の水が必要になりますので、家族の人数分を備蓄いただき、飲み水を確保していただくとか、トイレ等を流すためにお風呂のお湯を抜かずに貯めておいていただくとか、そうした備えをまずはお願いしたいと思います。その間に、行政でもできる限りの対応を行います。能登半島地震規模の災害になると、全容を把握するのにも時間がかかるとは思いますし、職員自身が被災している可能性もあるため、対応できる人数が限られてしまうことも予想されます。輪島市でも被災当日の職員の参集率は3割程度ということでしたので、どうしようもない状況もあるかと思いますが、そのようなこともお願いしているところでございます。

(委員) 蛇口をひねればいくらでも水が出るという、私たち市民側の意識を変えていくような啓発も必要だと思います。水道料金を値上げするというと、厳しい声もあるかもしれませんが、将来にわたって経営を持続させていくためには、それなりの費用がかかっているんだという意識が、私たち市民側にもあまり無いのかもしれないと思っております。そうした部分も含めて、啓発を進めていただければと思います。

(会長) ありがとうございます。私もおっしゃるとおりだと思います。特にこの地域は断層もたくさんありますし、中央構造線も通っていますので、大きな地震がいつ起こってもおかしくないわけですが、上下水道事業としての対策の側面と、その上のレベルの危機管理全般での側面とあると思いますので、全てを網羅するのはなかなか難しいと思いますが、上水道と下水道間での連携や情報の共有みたいなことはお願いしたいと思います。特に、上下水道事業の場合は、これから問題になってくるインフラの老朽化に伴う管路等の更新を着実に進めていっていただくことが大切なことかと思えます。耐震性を高めていただくことは、是非お願いしたいと思います。本来地震の多い地域だと思いますし、一度地震が起こると大変だということは、過去の歴史からも分かっていることですから、できる範囲で着実に少しでも早く重点的な部分から優先的に対策を進めていただきたいと思います。他にございますか。

(委員) 回答の中で、「耐震化」という説明がありましたが、水道管の耐震化を進めるということでしょうか。また、使用者側が行う対応ということではなく、行政側でしっかりした管に入れ替えるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) 耐震管と呼ばれる良い規格のものがありまして、公民館や病院などの重要施設と本管をつなぐ部分などについて、地震の揺れによって接合部が抜けてしまわないような構造になっている管へ入替を行っています。使用者の方に対応をお願いするというものではなく、行政側で行う対応となります。

(会長) 最近では、そうした耐震化の技術が進んできていると聞いています。当然、病院などは重要な施設ですし、避難所としての利用が見込まれるような安全性の高い施設についても、耐震管の導入を進めていただければと思います。伊那市は非常に多様で、

市街地や中山間地域、山岳地域などもあり、一律の対応では難しい部分もあると思いますので、地域の特性に合った災害対策というものを、今後ともご検討いただきたいと思います。

(2) 水道及び下水道事業経営健全化計画の進捗状況について

・資料No.2-①及び2-②により水道業務課長説明

(会 長) ただいまの説明について、委員の皆さんからご質問、ご意見がありましたらお願いします。

水道、下水道ともに、概ね目標は達成しているのかなと思います。唯一、水道事業の「不要資産の売却」については「達成困難」という評価になっておりますが、これについては今後どのような見通しとお考えでしょうか。

(事務局) 北清水水源跡地は、土地改良区と市の所有地が半々になっておりまして、その土地に入るための橋もなく、民地を通らなければ敷地に入れないという特殊性のある土地で、民間業者から一度問い合わせがあったのですが、その後途絶えてしまったという経過があります。上の原配水池は、立地は良い場所にありますので、既存施設を撤去すれば売却することは可能だと思いますが、北清水水源跡地の売却はかなり難しいと考えております。

(水道部長) 私が評価したのですが、北清水水源跡地については、令和5年度中に土地改良区との協議など、もう少し具体的なところまで検討を進められたらという思いもあった中で、そこまで至らなかったということ、上の原配水池については、令和6年度に既存施設の撤去費用を予算化するところまで至らなかったということから、達成困難という評価にしました。色々難しいからみもあり、市単独では売却できないという状況もあるものですから、時間はかかっていますが、今年度にはどちらか一方は具体化させたいと思っていますところ です。

(会 長) 売却となると相手があることですから、こういった KPI に設定して達成度を評価するには難しい指標かなという感じを受けました。売れるか、売れないかで評価するとこの評価基準の中では1(かなり順調)か6(達成困難)のどちらかになってしまうと思いますが、そうすると進捗を見るときに今説明いただいたようなことが見えてこない部分があります。例えば、評価の仕方として、売却するための検討を進めるとか、売却に向けた土地の整備を進めるとか、目標を「売却条件の設定すること」や「施設を除却すること」などに変えて、その土地の特性を明らかにしたとか、今年は測量を進めたということも、売却までの進捗管理の中では前進だと思いますので、もう少し丁寧に、評価として表現できる形にしたほうが、私はよろしいのかなと思います。イチゼロ評価だと、KPI の指標には向かないだろうという意味です。その方が我々も理解しやすいと思いますので、ご検討いただければと思います。他にございますか。

(委 員) 基本的なことでも申し訳ありませんが、「補てん財源」の原資は具体的にはどのようなものでしょうか。

(事務局) 補てん財源の主な原資は、収益的収支の中で発生した純利益になります。収益的収支の中で黒字になった分を内部的に積み立て、資本的収支の不足分を補てん財源から補うという仕組みになっております。

(委員) 純利益の全額が補てん財源になっているということでしょうか。

(事務局) そのとおりです。

(委員) わかりました。

(会長) 他にございますか。全体的に進捗状況は概ね80%以上の評価となっており、ほぼ計画どおりに事業が進んでいるということで、私は評価してよいと思います。また、なぜ100%ではなくて80%にしているのかという部分もあるかもしれませんが、細かな分析に基づいて評価された結果だと思います。引き続き計画どおりの達成状況となるように取組を進めていただければと思います。

(3) その他

・なし

4 その他

(水道部長) 委員の皆様には、令和4年12月より2年間の任期ということで大変お世話になりましたが、11月末をもちまして任期満了となります。次回の審議会は3月を目途に開催する予定ですが、特別な事情が無い限り、それまでに会議を開催する予定はございませんので、今回が任期中最後の会議となります。伊那市上下水道事業に対しまして、熱心なご審議を賜りましたことに、感謝を申し上げます。2年間大変ありがとうございました。

5 閉会

以 上